市内の街路樹ウォッチング<花見川区>　2013年10月23日

①花見川グリーンベルト

大正期に設置された高圧送電線の鉄塔の下の空き地を緑地帯として整備した場所で、昭和 30 年、花園婦人会が桜の若木 100 本を寄付したものが立派な桜並木となった。ソメイヨシノを始め、八重桜、河津桜、小福桜、エドヒガンなど現在約 70 本の桜が並ぶ。その他、ツツジ、イチョウ、アジサイも多く、地域の人が植えた花々が四季を通じて咲いている。近隣住民、老人会、各自治会、土木事務所で維持管理するほか、年２回各町内会で清掃を行っている。

②大賀ハス通りのメタセコイア並木

(A)　(B)

隣接する東大植物実験所の道路際にメタセコイアの林があることから、住宅開発業者はこれに合わせて同種を街路樹に選定したのかもしれない。だが、30m以上に成長する木なので根上がりで歩道の縁石が壊れたりアスファルトが凸凹になっている。風による倒木も心配される。街路樹の選定は業者任せではなく、行政との協議も必要ではないだろうか？ (A)

東大グランド脇の通りは、周りの緑をうまく利用した景観を形成しており、街路樹ありきではないことを実感する (B)

③さつきが丘のイチョウ並木

(A)　(B)

イチョウ並木は以前は秋の黄葉が美しかったが、「大量の落葉で掃除が大変」「車道用照明が葉に隠れて暗くなり防犯上問題がある」との理由で、下の枝がかなり切り詰められ、まるでネギ坊主のように見える。イチョウの樹形を無視した強剪定には、街路樹の在り方を根本から考え直す必要があることを感じる (A)

地元の方に手入れされてきれいに花が植えてある植栽マスは、雑草もなく美しい (B)